

教員名	松藤 薫子 (MATSUFUJI Shigeko)
所 属	語学センター
学 位	人文科学博士 (2000 お茶の水女子大学)
職 名	講師
URL / E-mail	

◆研究キーワード

言語心理学 / 英語学 / 言語学

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・松藤薫子 絹谷弘子 牛江ゆき子「自律型語学学習環境の構築を目指して」
第 46 回 LET (外国語教育メディア学会)全国研究大会発表論文集 CD, 71-80, 2006 年 8 月.
- ・松藤薫子 絹谷弘子 エドワード・シェイファー 牛江ゆき子
「自律型学習を目指した英語自習における支援効果について」
お茶の水女子大学『人文科学研究』第 3 巻, 113-127, 2007 年 3 月.
- ・松藤薫子 絹谷弘子 牛江ゆき子 「自律型語学学習環境の構築を目指して」
LET(外国語教育メディア学会)第 46 回全国研究大会発表要項, 19, 2006 年 8 月.

◆研究内容

ここ数年、個人研究として子どもが数量表現をどのように獲得するのかと共同研究としてお茶の水女子大学の学生にとってどのような自習支援プログラムが効果的かについて研究を行っている。

2006 年度の個人研究では、松藤 (2000)で指摘した数量表現の意味の獲得順序に関する一般特性に関して、英語・日本語・独語の自然発話資料と実験資料をさらに加えて分析し、その一般性を高めた。上記の論文では明らかにされなかった点、**almost all** に相当する語がいつ頃理解されるようになるのかに関して、日本語を母語とする小学生と大人に対して行った実験資料に基づき考察した。

共同研究では、松藤他(2007)では、教材の選択範囲を拡大し、学生が利用できる全ての中から教材を選択して学習し、教員からの最低限の目標学習時間や量を参考にして自分で目標値を設定し実践するという学習者の自主性をさらに高めた多読・リスニング自習を行い、このような自習支援の効果を考察した。

◆教育内容

学部のコア英語を担当した。担当した授業では、授業時間外に自分の語学力と興味にあったリスニング教材とリーディング教材で自習をするように指導・支援し、学習時間を増やしてコア英語の到達目標にできるだけ到達できるように目指した。

基礎英語の授業では、比較的平易な英文を聞いたり読んだりして要点をつかむことができるようになることを目指した。

中級英語の授業では、英語の新聞、論説、ニュース、レクチャーに使われる英語が理解できるようになることを目指した。

総合英語の授業では、英語の新聞、論説、ニュース、レクチャーに使われる比較的長い英文の論点を正しく理解できるようになることを目指した。

◆Research Pursuits

For these several years, I have investigated how children acquire quantificational expressions in my individual research, and what kind of self-learning support program is effective for the students of Ochanomizu University in my joint research.

In my individual research of 2006, I examined when Japanese-speaking children understood sentences including the quantificational word *hotondo* ('almost all'), which occurs in the subject or the object position, on the basis of the findings obtained from a study utilizing a truth-value judgment task. I found that children acquire the proportional meaning of *hotondo* late and that they interpret *hotondo* in subject/object position correctly around the age of 10. The result lends support to the acquisition process of *hotondo* that is predicted based on the framework of the Dynamic Theories of Language developed in Kajita (1977, 1997, 2002, 2004).

In my joint research, in order to find effective ways to support self-study for students at Ochanomizu University, we conducted a study of their progress in English by designing a condition that was designed to enhance learner's autonomy. In this condition, learners are allowed to choose from a variety of available materials and set their own goals, while referring to our minimum requirements. The results showed that the degree of their satisfaction and achievement was high. We found that the effectiveness of this method is confirmed. However, we realized the need to find a way to increase the effectiveness of self-learning for sophomores.

◆将来の研究計画・研究の展望

今後も、個人研究では、数量表現の意味の獲得を実証的に調査することによって、言語獲得モデルの妥当性を検討し、言語獲得原理の内容を解明したい。

共同研究では、これまでに作成した学習者の自律性を高めた自習支援プログラム基に、自律型学用の教材と学習者の現状を調査し、学習遂行のために必要な継続的支援として考えられる教員による学習者の支援と学習者同士のやりとりを効率よく行うのに適したコースマネジメント・システム (CMS) を導入し、より効果的な自律型学習支援プログラムに発展するように改良したい。

◆受験生等へのメッセージ

受験生のみなさん、受験勉強で大変かもしれませんが、目標を持って着実に学習してください。

大学の英語の授業では、周到に準備された最新の教材を使用し、これまでに学んだ事柄を確認しながら、大学生レベルの語学力を養成します。英語の基礎力を伸ばすためには、積極的に英語学習に取り組む必要があります。できるだけ早くこのような習慣を身につけることが大切だと思います。意欲的に英語学習ができるようになると、英語を通して自分の世界がもっと広がり楽しみも増えることでしょう。

◆Educational Pursuits

I taught core curriculum English classes at the undergraduate level. I supported students' self-learning of English outside the classroom as well as teaching English classes that would improve students' basic reading and listening ability.

Basic English classes were designed to help students read plain English prose and comprehend English spoken at a somewhat slower speed.

Intermediate English classes were designed to help students read and comprehend authentic short materials such as books, newspapers, TV programs and lectures.

Advanced English classes were designed to help students read and comprehend authentic long materials such as books, newspapers, TV programs and lectures.